

描くことは、対象が画面に在るための条件を最初から構築することだ。機能が剥がれたとき、その構造はより純粹に現れ、その姿は軽やかに見える。描かれたものはすべて、同じ必然性の中に置かれている。私の絵画は、見ることの前提の上に立っている。



《Nothing stays》,
2024, 2025, パネル、白
垂地、油彩, 567 × 422
mm (22.3 × 16.6 inches)

アーティスト・ステートメント

描くことは、見えるものを写し取ることではない。

対象が画面に在るための条件を最初から構築することだ。その意識は背景の一点にまで及ぶ。壁の質感、光の循環、対象を包む空気の密度。それらは雰囲気ではなく、対象がそこに在るための条件である。描かれたものはすべて、同じ必然性の中に置かれている。

役目を終えたものたちはすでに何かであることをやめ、静かに存在だけが続けている。描く対象が壊れたもの、欠けたものに向かうのはそのためである。機能が剥がれたとき、その構造はより純粹に現れ、その姿は軽やかに見える。

モチーフをたどりながら描く過程で、対象への親しみを錯覚する。しかしそこに近づくほどに、そのものが持つ固有の時間、知り得ない時間が際立ち、対象は遠くなる。

本来の場所から持ち出されたモチーフの傷や欠けは、役割や機能の喪失として理解される。しかしながら多くの場合、外部から与えられた判断にすぎない。本来の姿を知らなければ、どこが壊れているのかの判断さえ定かではない。その曖昧さと沈黙の中で継続する日々は、空虚さをはらみながらも、ごく自然である。

私の絵画は、見ることの前提の上に立っている。

本来の機能を失ったもの、役目を終えたものを主なモチーフとし、対象が画面に在るための条件を一から構築する絵画制作を続けている。2001年福島県生まれ。2024年武蔵野美術大学造形学部油絵学科油絵専攻卒業。2026年同大学大学院造形研究科美術専攻油絵コース修了。

CV

学歴

- 2024 武蔵野美術大学 造形学部油絵学科油絵専攻 卒業
- 2026 武蔵野美術大学 大学院造形研究科美術専攻油絵コース 修了

グループ展（抜粋）

- 2025 『第34回奨学生美術展』, 佐藤美術館, 東京
『諏訪敦研究室展 LINGUA FRANCA』, 長亭ギャラリー, 東京
- 2024 『静穏 -神田梓 高橋美紗貴2人展-』, フリュウギャラリー, 東京
『諏訪敦研究室展 MELTING POT』, 長亭ギャラリー, 東京
『FIRST CONTACT』, REIJINSHA GALLERY, 東京
『桜花桃李』, モノノアハレヲ, 福岡
- 2022 『第9回未来展 -日動画廊 美術大学学生支援プログラム-』, 日動画廊, 東京
『Spark展』, 新井画廊, 東京

受賞・助成

- 2026 武蔵野美術大学 修了制作優秀賞
- 2025 第34回奨学生美術展（佐藤美術館）名村大成堂賞, 松田油絵具賞, PIGMENT TOKYO賞
佐藤国際文化育英財団 第34回奨学生
- 2024 武蔵野美術大学卒業制作 優秀賞 および三雲祥之助賞
- 2022 武蔵野美術大学 油絵学科学内コンクール 諏訪敦賞
はなう美術振興財団 写実画家育成助成金

aaploit

〒112-0014 東京都文京区関口1-21-17 TMKビル2F

info@aaploit.com



作品をもっと見る

<https://aaploit.com/ja/artists/takahashi-misaki>

著作権・利用条件

© 2026 高橋 美紗貴 and aaploit

本資料に含まれるすべての作品、画像、テキストは著作権で保護されており、アーティストおよびaaploitに帰属します。

ポートフォリオ・高解像度画像

出版、研究、キュレーション目的での包括的なポートフォリオおよび高解像度画像ファイルは、ご要望に応じてご提供いたします。お問い合わせは下記まで: info@aaploit.com

許可される利用:

- 批評、教育、ジャーナリズム目的での短い引用・抜粋。
- 適切なクレジット表記を伴う複製: "高橋 美紗貴、courtesy of the artist and aaploit"

禁止される利用:

- 書面による許可のない商業目的での複製。
- 画像またはテキストの改変。
- アーティストの作品や意図を誤って伝える複製。

最終更新日: 2026年4月25日